

テーマ「看護にデザイン思考を取り入れたワークショップ ～看護・ケアの課題発見と解決に向けて～
 高大連携教育を通しての学び」

カテゴリー：④連携

1. 学校概要：学校名：学校法人温知会 仁愛高等学校 所在地：福島県会津若松市鶴賀町1番5号
 課程名：准看護師課程（高校3年）・5年一貫看護師課程（高校3年）
 1学年定員数：40名・40名 就業年限：3年・5年

内 容：生徒が医療現場における人々のニーズ・問題を“発見する力”や“解決する力”を養うことを目的に、会津大学・会津短期大学部・仁愛高校・NOP 法人多文化互恵創造ネットワークの連携により令和4年度より始まった。対象は高校2年生。探求や臨地実習の科目で、4回のワークショップを通して「デザイン思考」を学んだ。（表1参照）同時に看護教科ではバイタルサイン測定を学び、臨地実習で初めて患者さんを受け持ち、日常生活の援助を行った。その時の患者さんとの関わりからプロトタイプ（製品）を作成した。

	ワークショップ内容	生徒の臨地実習内容
第1回 6/14	問題発見のための手法	6・9月臨地実習 受け持ち患者さんの観察したこと、発見した問題についてまとめる
第2回 9/16	真の問題を定義するための手法	
第3回 10/21	問題解決のためのアイデア創出 プロトタイプの作成手法	11・12月臨地実習 患者さんの問題や援助方法について、より深く考え、アイデアを出し合いプロトタイプを作成する
第4回 2/3	検証結果の発表、改善点の検討	
発表会 3/9	プレゼンテーション	

【表1】

ワークショップでは、大学の講義室で、大学生と一緒にグループワークを通してデザイン思考について学んだ。大学生のリードのおかげで、活発な話し合いから様々なアイデアが生まれ、試作品を作成できた。生徒にとっては現行デザインされている介護補助具について知ることができ、どのような工夫があるのかという学びにもつながった。臨地実習では受け持ち患者さんの情報をとるだけで精いっぱいだが、患者さんの発言がすべてではなく、本当はどうしたいのか、患者さんの本心を観察やインタビューから導き出し、振り返りを行い学びが深まっている。

【実際の成果物】



【生徒の感想】最初は先生の助けがないと話し合いが進まなかったが、最後には自分たちで話し合いを進め積極的に意見を出し合えた。／患者さんの今後の生活が安全に過ごせるように商品を考えるのは大変だったが、しっかり考えることができた。次回の実習に活かしたい。／最初の話し合いは皆の意見が出ずにイライラしたが、自分の話し方や態度で意見が出ないかもと見直すことができた。人をまとめる力を大きく成長させることができた。

【生徒アンケートの分析】ワークショップ終了後に生徒にアンケートを実施した結果、主体性、働きかけ力、柔軟性についての評価が高かった。グループワークを通して他人の意見を尊重する姿が見られ、また自主的に役割を引き受けることができていた。最後の発表では、他のグループの発表を見てさらにいいものにしようと取り組む様子があった。